

OKEN

桜建会報

2019-March No.114

日本大学桜門建築会

<http://www.okenkai.jp/>

contents

特集◎

教育者・宮脇檀への オマージュ展——2

亀井靖子／澤田千紘／宮嶋るり子／渡邊康

トピックス◎台湾研修旅行報告——7

佐藤信治／川久保智康／望月美那

齋藤賞・加藤賞・桜建賞 2018年度受賞者一覧——10

オール日大建築系 2018年度授与賞・受賞者一覧——12

事務局だより——14

学部ニュース——14

教育者・宮脇檀へのオマージュ展

生産工学部建築工学科 居住空間デザインコースで教えたこと



左／「教育者・宮脇檀へのオマージュ展」チラシ（制作者は田丸明日香）右／赤い格子が印象的な「松川ボックス」を再現した展示入口 下／「教育者・宮脇檀へのオマージュ展」会場風景 下右／図書館の「宮脇檀の本」コーナー



生産工学部建築工学科居住空間デザインコース(以降、居住コース)は、1991年、女子学生30名を対象に住宅設計と住環境を中心とした建築教育を行うコースとして開設され、その研究所教授として宮脇檀先生が就任しました。

宮脇先生は、1998年に亡くなるまでの約7年間、自らを塾長と呼び、本学科の女子学生教育に力を注ぎました。没後20年経った現在も、宮脇先生が提唱した「眼を養い、手を練れ」という教育理念は、その後に着任した先生方や学生たちに受け継がれています。

そこで本学科では、宮脇先生が残した教育遺産を多くの皆さんと共有したいと考え、「宮脇檀 手が考

える、手で教える」展の一環として、「教育者・宮脇檀へのオマージュ展—居住空間デザインコースで教えたこと—」を、2018年9月29日～10月21日、津田沼キャンパス39号館1階ギャラリーで開催しました。来場者数は延べ819名を数え、その半数以上が学部外からでした。

開催にともない、学生が主体的に関わって学べる場にしたと考え、学生の実行委員会を立ち上げました。その時に学生を束ねてくれたのが、代表の澤田千紘さん(M2)と副代表の田丸明日香さん(M2)です。さらに、学生に少しでも宮脇先生の著書を読んでもらおうと、図書館に「宮脇檀の本」コーナーをつくりました。

学科・学部からも、主任をはじめ多くの先生方が協力してくださいました。特に、居住コース設立当初から宮脇先生と二人三脚で指導にあたった中村好文先生は、映像制作や展示構成のために、仕事の合間をぬって何度も大学に足を運んでくださいました。

さらに、居住コースの授業を担当する小川真樹先生と山中祐一郎先生は、宮脇先生の目指した教育を学生と一緒に学ぼうと、多くの時間を割いてくださいました。

さまざまな方から幅広くご協力いただきましたことを、この場を借りて感謝申し上げます。

亀井靖子(居住空間デザインコース准教授、広報委員会委員)

表紙／学生たちが再現した「松川ボックス」の中庭の格子

教育者・宮脇檀へのオマージュ展のあれこれ (会場配布展示案内図より)

① 展示会のプロローグ

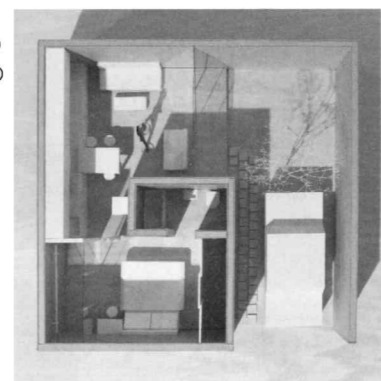
教室で教える宮脇先生のスナップあり、居住コース恒例のパーティ写真あり、「眼を養い、手を練れ」のスローガンのネタ本あり、「Choi Box」の図面集ありのお宝コーナー。



② 自分の住まいを考える

宮脇先生は雑誌『モダンリビング』(No.60、1967年冬号)に「自分の住まいを考える」というタイトルで9つの自邸の計画を発表していました。このたび、この愛らしい幻の計画案を居住コースの学生たちが1/20の模型で再現。自分も小さくなって、中を歩いてみてください。

自分の住まいを考えるより「カタツムリの家」1/20の模型



③ 宮脇檀の手描きスケッチ

宮脇先生は、時には授業中に学生の目の前でスケッチを描いてみせたりしました。「製図台まわり」とル・コルビュジエの「小さな家」の2枚のスケッチは教室で授業中に描かれたものです。

④ 塾長通信

宮脇先生は手づくりのテキストを「塾長通信」として、学生に手渡していました。その「塾長通信」は、先生が入院してからもFAXで送られてきました。

⑤ 映像 その1

「宮脇檀 居住空間デザインコースでの教育」 「居住コース」の創設期に、宮脇檀の下で学生の指導に当たっていた8人の講師たちに、教育者としての宮脇先生の思い出を語ってもらいました。

⑥ M氏のための別荘

「M氏のための別荘」は、1年生後期の設計課題です。M氏は言うまでもなく宮脇先生。病気で入院中だった先生へのお見舞いの気持ちをこめた課題でした。1年生30人全員の作品をまとめて宮脇先生に届けると、病床から、すぐに一人ひとりの作品の裏に学生に宛てた講評とアドバイスをしたため、返してくれました。

「M氏のための別荘」展示風景



⑦ 映像 その2

「まちづくりはみちづくり」、「いえとみちの間が豊かさを生む」、「出石という不思議な街がある」

宮脇先生の住宅作品と建築作品はよく知られていますが、「住宅地の計画」や「まちづくり」でも第一人者であったことは、残念ながらあまり知られていません。このコーナーでは、宮脇先生が手がけた住宅地計画の数々と、晩年に意欲的に取り組んだ兵庫県出石の4つのプロジェクトを紹介し、学生たちが現地取材した成果です。

⑧ 宮脇先生の出石のスケッチ

宮脇先生が出石のプロジェクトのために描いたスケッチと、居住コースのゼミ旅行で出石を訪れた折の地元の人たちとの交流の様々をご覧ください。



「静思堂」(1999年宮脇檀)での出石の方々との勉強会

⑨ 宮脇檀の混構造住宅

宮脇先生のテーマである混構造住宅の代表作を、断面模型をつくることで分析し、考察してみる居住コース学生の試みです。

⑩ 松川ボックス

日本建築学会賞受賞の「松川ボックス」について、学生がまとめてパネルで紹介(模型は、理工学部建築学科山中新太郎研究室が作成したものを展示)。

オープニング・シンポジウム

9月29日(土) 津田沼校舎 39号館 6階スプリングホール

オープニング・シンポジウムは、宮脇先生を知らない世代の学生も興味をもって参加でき、さらに教育につながるものにしようと考え、居住コース卒業生(8期生)で、新建築社「住宅特集」編集長の西牧厚子さんの発案により、「穴が開くほど見る——建築写真から読み解く暮らしとその先 宮脇檀特別版」を行いました。

登壇者は、宮脇先生と同世代の建築家の阿部勤さん(アルテック代表)、藤村龍至さん(東京藝術大学建築科准教授・RFA 主宰)、中村好文さん(レミングハウス主宰・多摩美術大学客員教授)、居住コース卒業生の鍋島千恵さん(TNA共同主宰)の4名。進行役は西牧さんが務めました。

鍋島さんは、宮脇先生から4年間指導を受けることができた最後の学年、西牧さんは、入学時に宮脇先生の面接を受けた最後の学年です。

登壇者には、宮脇先生の作品を撮った1枚の写真を取り上げ、時代背景・社会状況・暮らし・宮脇先生の思いなど、読み取る側の想像も交えながら語ってもらいました。4人が選んだ写真は、鍋島さん「あかりのや」(1967)、阿部さん「早田邸スケッチ」(1975)、中村さん「もうびいでいっく」(1966)、藤村さん「シーサイドもち」(1988)。各人の話によって宮脇先生が目指したことやその人柄などが浮かびあがり、学生から専門家・卒業生まで、だれもが楽しめるものとなりました。



オープニング・シンポジウムの様子



上/トークイベントの準備風景。下/トークイベントの様子

トークイベント

10月20日(土) 津田沼校舎 39号館 6階スプリングホール

トークイベントでは、今まで公になる機会が少なかった宮脇先生の教育者としての顔を、当時一緒に教壇に立たれていた曾根陽子先生、中山繁信先生、木下庸子先生にお話いただきました。

ピーマンの平・立・断面図課題など、身近な素材を使ったわかりやすい授業や、学生以上に好奇心旺盛な研修旅行でのエピソードなど、ふつうの教育者とは一線を画した、熱意と人間味あふれる宮脇先生像が明らかになりました。

最後に、司会進行役の中村好文先生の発案で、「宮脇先生の指導 5つのキーワード」を会場と一緒に考えた結果、「①眼を養う、②手を練る、③センスを磨く、④探求を楽しむ、⑤Girls be ambitious.(大志を抱く)」に決まりました。



左/「松川ボックス」の中庭の製作風景
下/再現した「松川ボックス」の中庭



宮脇展の学生代表として

澤田千紘(生産工学研究科建築工学専攻2年)

2017年の初め、「宮脇先生の展覧会を行うことが決定しました」と、学生を対象に話がありました。

このコースに6年間在籍している私にとっての宮脇先生は、微笑みながら学生を優しく見守る遺影と、宮脇先生を知る方から聞いていた話でしか知らない、近いところにいるのに遠い存在でした。そんな先生の展覧会は、まず宮脇先生を知るところから始まりました。

夜遅くまで続いた先生方との会議や展示品の制作、業者さんとの連携を綿密に行い、無事に初日を迎えられるました。

最終日を終えるまでの約1か月間、改めて展示品を見た時、「あっ

という間に始まって終わってしまった」との感慨が湧き、初日を迎えるまでの苦難もよい思い出となりました。

埋まっていく芳名帳を見るたびに、宮脇先生をご存知の方が大勢いらっしゃることを感じ、その先生が築いてきたこのコースにいることに誇りを感じました。

関わった学生全員が、学生最後の夏休みを使い、卒業論文、卒業設計に取り組みながら、宮脇先生の軌跡に触れました。今まで知らなかった宮脇先生の姿、図面に触れ、これからの人生を歩む中で、ふと思い起こす経験であるだろうと思います。

この場を借りて、先生方、学生、来場者を迎え入れる門を施工してく



上/宮脇展の会場準備風景 下/宮脇展の打合せの様子

ださった施工業者さん、展覧会の象徴するタイトルを貼ってくださった職人さん、すべての方に感謝の意を表します。

ありがとうございました。

宮脇檀の居住空間デザインコースにおける教育

宮嶋るり子(生産工学部建築工学科居住空間デザインコース4年)

私は、今回の展覧会で、卒業論文「宮脇檀の居住空間デザインコースにおける教育」を書く際に行ったヒアリング調査をもとに、短編映画を作成し、上映しました。

ヒアリング調査では、宮脇先生と共に教育に携わった岩井達弥先生、木下庸子先生、杉浦伝宗先生、曾根陽子先生、中村好文先生、中山繁信先生、諸角敬先生、八木健一先生の8人にお話をうかがいました。卒業論文では、先生方のお話や来場者へのアンケート結果をもとに、図のような2軸マトリックスを作成しました。

そこから、宮脇先生の授業は、建築を初めて学ぶ学生に寄り添ったわかりやすい授業で、教室でのふだんの過ごし方は自由で、授業の際は厳しくなることがわかりました。

宮脇先生の建築教育に関するアイデアは、居住コースの教室にたくさんあります。例えば、実際に「体験

する」ことを大切にしていた宮脇先生は、居住コースの教室にたくさんの名作椅子を置き、実際にその座り心地を確かめられるようにしました。

また、教室にキッチンをつくり、そこで学生が料理をすることで、使いやすいキッチン寸法を確かめることもできます。このように、そこにいるだけで建築を学ぶことができる居住コースの教室は、今も、これからも、学生たちに大切に使われていきます。

8人の先生方のヒアリング調査を通じて見えてきた教育者としての宮脇先生は、とにかく楽しいことが好きで、自由な空気の中で建築を学ばせようと、たくさんの工夫をしていたんだろうなと思いました。

その中でも、宮脇先生が設計の課題を進めている学生に、差し入れをしようとコック帽を被って料理をふるまってくれたお話は、楽しいことが好きな宮脇先生の人柄を表してい



岩井達弥先生へのヒアリング調査の様子

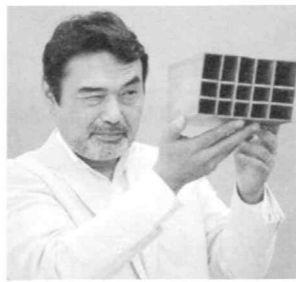


宮脇先生の教育をまとめたマトリックス図

て、とても印象的でした。そして、なによりも、8人の先生方が、みんな楽しそうにニコニコと宮脇先生のことについてお話をされている姿を見て、宮脇先生は本当にだれからも親しまれる人柄だったということがよくわかりました。

「宮脇檀 手が考える・手で教える」展

渡邊康 (生産工学部建築工学科教授)



「宮脇檀 手が考える・手で教える」展は、27年前に建築工学科の居住空間デザインコース創設にあたり研究所教授を務めた、故宮脇檀先生のJIA全国巡回展「建築家・宮脇檀のドローイング展」と、本学制作の「教育者・宮脇檀へのオマージュ展」のジョイント開催で、一般建築関係者のみならず、本学学生、教員にとって、改めて宮脇先生の実践された教育のリアリティと今日性、そして、人間・宮脇檀を知る貴重な機会となりました。

特に「松川ボックス」の中庭を原寸で再現し、宮脇先生のスケッチによる9つの住宅の模型と混構造住宅の構造模型、住宅地やまちづくりの短編映画をつくることを通じて、われわれ自身が多くを学ぶこととなりました。

「松川ボックス」の中庭を再現

建築家・宮脇檀先生が日本建築学会賞を受賞した「松川ボックス」の中庭を原寸で再現し、会場をふたつの展示スペースに分ける構成としました。「松川ボックス」エントランスの印象的な真っ赤な格子が展示会入り口の効果的なアクセントとなりました。

「松川ボックス」は、1階開口部の門型のフレームが室内の床から内法1850mmの高さに低く抑えられており、2階レベルは斜めの壁で塞がれています。門型フレームを学生と製作しながら、宮脇先生が庭の見え方を、1階からだけにこだわった理由

を実感することができました。

ドローイング展

「ドローイング展」は、JIA-KIT 建築アーカイブス主催の巡回展であり、宮脇先生にゆかりのある生産工学部での開催となりました。その展示は、先生の数々の手描きの図面と自由自在なフリーハンドのドローイングで構成されています。

28歳の時から実作を次々と発表し、30歳の時にはすでに「もうびいでいっく」を計画していたことに驚ろかされます。その早熟なことと、時を経るごとに変化していく設計のあり様を、身近に見ることができた展示でした。

オマージュ展

もう一方の「オマージュ展」では、宮脇先生が本学に残した記録や手づくりの学生へのテキスト「塾長通信」を展示すると同時に、宮脇先生を知らない現在の学生が、先生の足跡を調べて考察し、模型や短編映画としてまとめました。

ひとつ目は、先生が理想の住まいのスケッチとして残した9軒の住宅を、学生が立体化しています。理想の住宅であるだけに、構成のしっかりしたコンセプトの明確な計画で、壁に窓をつくらない開口部など、学生にとってはとても設計の勉強になりました。

ふたつ目は、学生が調べてまとめた混構造の変遷を表した9軒の構造

模型です。最初は構法上の必要から始まり、それがボックスシリーズでは手法として意図的になり、後期になると、その構成はなかなか複雑になっていきます。その変化を、学生が身をもって理解した展示となりました。

みつつ目は、宮脇先生が設計に携わった兵庫県出石と住宅地計画の短編映画の上映です。宮脇先生は、出石町に公共施設を4つ作り、その過程でまちづくりにも関わっています。さらに住宅地に至っては、全国に64か所も設計をしています。

住宅作家としての宮脇先生の本はたくさん出版されていますが、出石や住宅地については少なく、あまり注目されていませんでした。しかし、今回それらの場所に訪れて改めてその素晴らしさに驚き、それを表すには短編映画がよいと考え、学生が試行錯誤をしながらつくりました。その他に、宮脇先生と一緒に教えていた8人の先生方へのインタビューをまとめた映像もつくりました。

展示場の一角の囲われたコーナーには、「M氏のための別荘」という1998年当時の1年生の課題30人の案それぞれに対して、病床にあった宮脇先生が評や指導をユーモアを交えていねいに記したイエロートレーシングペーパーが展示されました。そのコメントは、学生への愛と夢であり、一方、同時期に記された「ドローイング展」の事務所所員との打合せトレーシングペーパーは、カラフルな色鉛筆の生き生きした表現の中に、具体的な指示や厳しい言葉が並び、空間創造への強い意志があふれます。両者の対比は、本展示会の見所のひとつでした。

「ドローイング展」の展示風景



トピックス◎台湾研修旅行報告



昨年10月下旬に、桜建会主催の研修旅行が催行された。行き先は、台湾。話題の伊東豊雄設計の台中メトロポリタン・オペラハウスやI.M.ペイ設計の路思義教堂など、現代建築から歴史の刻まれた古い街並み散策など、盛りだくさんの旅程が組まれました。初めて参加したというOB・OGの方に、今回の旅行の印象や感想のご報告をいただきました。

旅程 2018年10月27～30日

27日 東京/台中
台中市円形野外劇場 ⇨
台中メトロポリタン・オペラハウス
夕食終了後、愛甲夜市へ
台中泊

28日 台中/台北
路思義教堂 ⇨ 宮原眼科(昼食) ⇨
台北パフォーミング・アーツ・センター
⇨ 台北・故宮博物館
夕食は故宮晶華の「国宝宴」で日本大学校友会台湾支部との交流
台北泊

29日 台北/東京、台北/淡水地方
圓山大飯店の館内ツアー ⇨ 中正紀念堂
⇨ 国立台湾大学社会科学部棟
昼食は禅風茶趣の「茶葉料理」 ⇨
(3日間コース)台北発/東京着
(4日間コース)淡水地方・雲門劇場 ⇨
北投温泉加賀屋泊

30日 淡水地方/台北/東京
北投公園の散策 ⇨ 台北市立図書館北投分館 ⇨ 温泉博物館 ⇨
昼食は「點水樓 懷寧店」



台北・圓山大飯店(The Grand Hotel)前での集合写真

今回で29回目となる桜建会主催の研修旅行は、10月27～30日にかけて台湾を巡る旅となりました。今回の旅のテーマは、再会です。

再会には、建築における日本と台湾との関係が深いこと、台湾在住の日大OBとの懇親、桜建会の若い参加者との世代間交流が促進されることなどの意味が込められています。

旅の内容は、台中メトロポリタン・オペラハウスや、台湾大学社会科学部棟などの著名な建築見学の他に、台中夜市の散策、圓山大飯店や北投温泉加賀屋への宿泊、さらに故宮博物院に見学の後は故宮晶華にて現地の日大OBとの懇親会と盛りだくさんでした。参加者は26名を数え、年齢層は上は80歳代から下は大学卒業2年目の若手までと多様な構成でした。

大型バスを借り切って3泊4日で台湾を縦走するハードなスケジュールでしたが、全員が自分のペースで楽しんでおられたのが印象的でした。**桜建会の研修旅行に舞い降りる不思議な縁**

日本中の多くの旅館・ホテルが、団体旅行から個人旅行への切り替えに挑んでいます。そうした中、桜建会による団体研修旅行の意義はどこにあるのでしょうか。

昨年度の奈良旅行を企画中のことです。一般的に旅行の企画では、目玉企画があるかどうかで成否の分かれます。薬師寺の東塔が、創建以来初めての本格的な解体修復工事が行われていた時期で、ぜひとも見学しようと知恵を絞りました。

しかしながら、建築系のさまざまルートでお願いしても見学許可が得られません。どうしようかと困り

果てていた最終段階で、奇跡のようなことが起こりました。それは、ある桜建会会員の奥さまの友だちが薬師寺の偉い方と親しいという、まったく思いもしなかったルートから強力な縁が舞い降りてきました。

この極めて個人的なつながりによって、天平時代に造られた心柱や瓦、継ぎ手部材の数々を間近に見るという、歴史的な瞬間を皆さまと共有することができました。

こうした不思議な縁は、今回の台湾旅行にも舞い降りてきました。I.M.ペイのチャペルはこの縁のおかげで見学することができました。このように、これまで顔見知りでなかった個人と個人が、縁によって広く、または深くつながるための媒体となること、桜建会の役割のひとつではないでしょうか。

なぜ建築のために

旅をしなければならないのか？

東アフリカで誕生した人類は、約8万年前から全世界へと長大な旅を始めました。そのころの人類は、毎日が旅から旅の生活だったのです。

その後、日本列島に渡った人類は、1万年ほど前からやっと定住を開始します。旅のない安住の地を手に入れたことで、初めて建築という仕事が成立したのです。

しかしながら、今日のわれわれは、建築を生業とするために旅に出かけます。それは旅の醍醐味が、知らないこと、足りないことが満たされる瞬間にあるためといわれているからです。その瞬間を皆さまと共有できることを祈念しながら、これからも旅の企画を立てていきたいと思っています。(佐藤信治/代表幹事・理工学部海洋建築工学科専任講師)

新たな挑戦への活力を生む旅行

川久保智康

台中メトロポリタン・オペラハウス 構造と空間の等価な関係

台中、台北の建築を巡る4日間の旅。スタートは台中メトロポリタン・オペラハウスとなった。言わずと知れたこの建築は、その造形もさることながら、完成するまでに10年以上を費やし、その建設プロセスの壮絶さにも感銘を受けざるを得ない。美しさや技術だけでなく、プロジェクトを実現させた人々の思いがにじみ出て、その魅力に駆られて、世界中から人びとが訪れるのだろう。

この建築において、私の興味としてもっとも大きかったのは、構造体の存在感とそれらが作る内部空間の特異性である。膨らんだり絞れたりしながら、上下左右にも微妙に形状を変えつつ、繰り返し連続して構成される構造体と、それをぬって現れる空間。空間のための構造ではなく、もちろん構造が先んじているわけでもない。見事に構造と空間が等価な関係を保っている。

進むにつれて刻一刻と変化する景色は、さらに先を期待させ、心踊る

楽しさがあつた。そして、この難解な構造体を実現させたコンクリートの型枠工法が、日本の技術であったこともたいへん親しみを感じた。

実は、私は独立する前、同じ工法を使って自由曲面形状の屋根をつくるプロジェクトを担当していた。デザインの自由度を拡大する可能性を強く感じた工法で、現地に展示されているモックアップを見て、当時を思い出し、感慨深いものがあった。

路思義教堂 凜とした美しさ

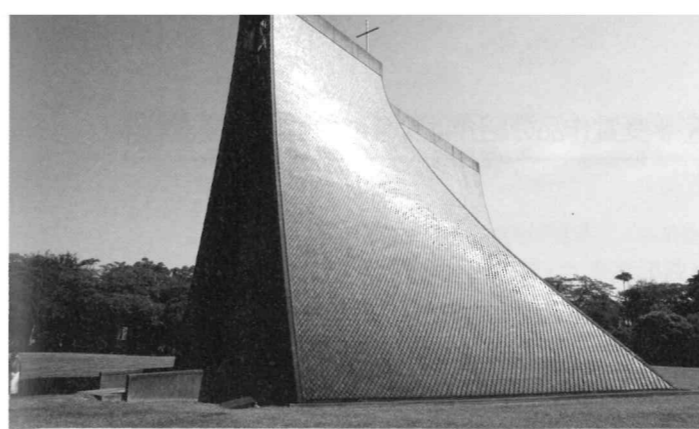
翌日は台中の東海大学内にある路思義教堂へ向かった。広いキャンパスはまるで自然公園のようで美しく、教堂はその一角に佇んでいる。独特な色合いのタイル張りの外装をもった4枚のコンクリート壁が、傾き擦れながら寄り添うように配置され、天に向かってずっと伸びていく。凜として美しい。礼拝室内は、格子状の補強梁を施した躯体の重厚感と、祭壇に向かうスリット状の軽快な天窓が、明快にこの空間の

意志を示している。ていねいで、さりげないディテールも清々しい。日曜日ということもあり、ミサを終えた人びとの明るい顔も、この建築のもつ姿として印象的であった。

2年前の夏、この大学の3年生が私の事務所にやって来て、インターンの研修を行った。今回は、その彼のはからいで、礼拝堂内の見学もかなった。感謝。再会できたことをたいへんうれしく思う。その他にも、故宫博物院や台湾大学社会科学部棟など、多くの建物の視察を行った。

大学院を卒業して25年。初めてこの旅行に参加したが、懐かしい先生方や活躍する先輩方と、建築談義をしながら巡る旅はとても新鮮で、また新しい挑戦への活力を生んでくれる機会となった。

かわくぼ・ともやす 1968年東京生まれ。92年日本大学理工学部海洋建築工学科卒業。94年日本大学大学院理工学研究科修了。94～2001年磯崎新アトリエに勤務。02年独立、05年に有限会社川久保智康建築設計事務所として法人化。14年より日本大学理工学部非常勤講師。12年、17年グッドデザイン賞。13年住まいの環境デザインアワード東京ガス賞。



上/路思義教堂の祭壇側全景。下/教堂の礼拝堂の内観(写真/川久保智康)



上/台湾大学社会科学部棟内部。下/路思義教堂に向かう途中の緑道を歩く一行。前列左が望月さん(写真提供/望月美那)



台湾研修旅行報告 ②

たいへん貴重で、とても贅沢な旅行

望月美那

家族で初参加

台中、台北の建築を巡る4日間の旅。今回の研修旅行に参加を決めたのは、大学を卒業して1年が過ぎ、社会人2年目として忙しい日々を過ごしているところでした。

父は理工学部の卒業で、私も同じ理工学部建築学科卒業のため、自宅には研修旅行の案内が2通届いておりましたが、家族の中で今回のプログラムにいちばん興味を示していたのは、実は母でした。建築の道を通っていない母にとっても、世界的に著名な伊東豊雄氏設計の台中オペラハウスの見学は、とても魅力的でした。

「台中オペラハウスが見たい!」という強い母の意向に押され、家族での参加を決めました。実際のところ、他の参加者の方々とはほとんど面識がなく、不安もありました。しかし、いざ参加してみると、建築業界の第一線でご活躍されている方ばかりにも関わらず、皆さんとても気

さくで、社会人として未熟な私にもたいへん親切にしてくださいました。

3日間という短い時間でしたが、一緒に旅をする中で、同じ建築業界で働く先輩としてのアドバイスや、見学先の建築物について解説していただくなど、たいへん貴重な経験になりました。

建築の中でも、構造、材料、設計、まちづくりなど、さまざまな分野がありますが、この研修旅行では分野の異なる参加者の方々から多方面にわたって解説いただき、これは会社の研修旅行で行ったとしても経験できない、たいへん贅沢な機会でした。

もちろん、見学の内容も素晴らしく、特に国立台湾大学社会科学部棟のような、ふだん一般の人が入れないようなところにも、現地の方の解説を受けながら回れたことは、この研修旅行の魅力のひとつです。

心強いつながりを実感

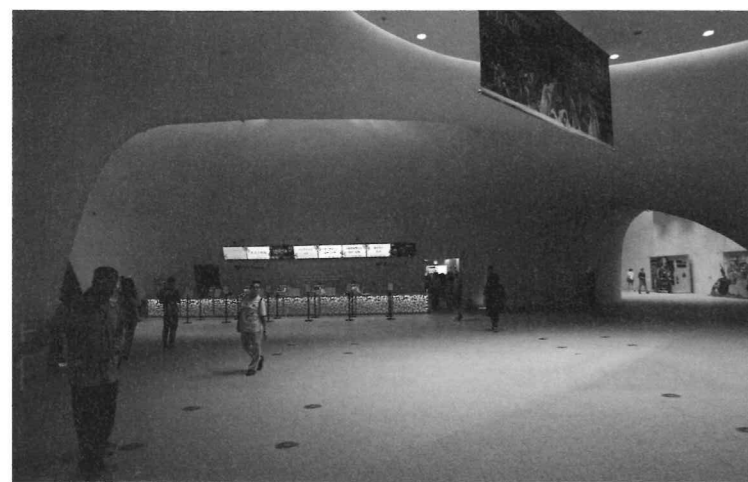
卒業すると大学とのつながりは薄

れてしまうように思われがちですが、「日本大学の卒業だからこそ」このOB・OGのつながりを大切にすべきだと強く感じました。会社や業種が異なっても、同じ業界にいる以上、どこかで必ずつながれることが本学の強みでもあり、心強さだと思います。

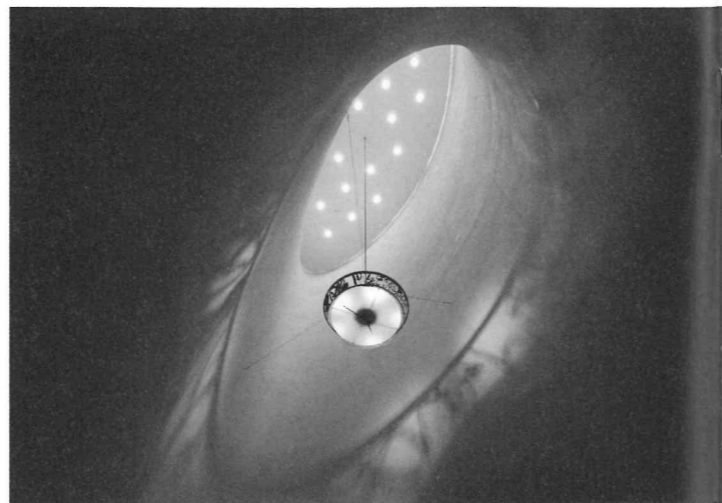
今回の研修旅行では、同年代の方はほとんどいませんでしたが、若手だからこそ、今のうちにより建築や街を実際に見て勉強し、ご活躍されている先輩方とつながれるのは、またとない機会です。また次回参加する際には、若手も多く参加し、見学の中で、たくさんの情報や意見を交わせる場が実現できたらと思います。

この度は貴重な機会をいただき、本当にありがとうございました。

もちづき・みな 1994年東京都生まれ。不二聖心女子学院高等学校卒業。2017年日本大学理工学部建築学科卒業。同年乃村工藝社に入社。プライベートショーや展示会、商業空間におけるコンテンツ企画を担当。



左/台中メトロポリタン・オペラハウスのエントランスホール全景。左下/階段よりエントランスホールを見下ろす。下/1階、天井の見上げ(写真/川久保智康)



齋藤賞

遊佐大智 (理工学研究科建築/修士論文)
「共同住宅の小屋裏を介した伝搬音の減衰特性に関する実験的検討」
指導/教授・冨田隆太、特任教授・井上勝夫

市川大真 (理工学研究科建築/修士論文)
「RC造建物群に対する地震損傷評価体系の再定義 -地震損傷に及ぼす影響因子の究明と新たな枠組の提案-」
指導/教授・長沼一洋、准教授・田嶋和樹

山中美穂 (生産工学研究科/修士論文)
「海軍建築における柔構造理論と実践に関する研究」 指導/教授・藤本利昭

西田電 (工学研究科/修士論文)
「ポリマーセメントモルタルの性能評価のための各種試験条件及び調合因子としてのポリマー混入率の検討」
指導/教授・出村克宣、専任講師・齋藤俊克

加藤賞

沖野貴久 (理工学研究科海洋建築工/修士論文)
「剛性偏心を有する滑り基礎構造建物の地震応答性状に関する研究」
指導/教授・北嶋圭二、特任教授・中西三和、名誉教授・安達洋

橋本佳樹 (理工学研究科海洋建築工/修士論文)
「密度および形状の異なる材料により形成される海浜地形の比較に関する研究」
指導/教授・小林昭男、助教・野志保仁、客員教授・宇多高明

宮下奈々恵 (理工学研究科海洋建築工/修士論文)
「離島港湾における係留船舶の動揺と係留索張力の応答特性に関する基礎的研究」
指導/教授・居駒知樹、准教授・惠藤浩朗、特任教授・増田光一

桜建賞

中村明日香、一柳薫 (工学部建築/卒業論文)
「子どもの動作による加振力の実験的検討」 指導/教授・冨田隆太、特任教授・井上勝夫

桑田幹也 (工学部建築/卒業論文)
「単一の切り欠き加工を施した6本組木に関する実験的研究 -6本組木の接合部の履歴性状及びフィーレンディール架構への適用性について-」 指導/教授・岡田章、教授・宮里直也、助教・廣石秀造

野呂航 (工学部建築/卒業論文)
「屈曲ケーブルにより構成されたHP型ケーブルネット構造の基本的構造特性に関する研究」
指導/教授・岡田章、教授・宮里直也、助教・廣石秀造

大西里佳 (工学部建築/卒業論文)
「日本におけるカトリック教会の展開に関する研究 -初期教会建築の地域分析に基づく考察-」
指導/特任教授・大川三雄

田邊勇輝 (工学部建築/卒業論文)
「マレーシア旧市街地に存在するショップハウスの空間特性に関する研究 -ショップハウスとカキリマに着目した研究調査-」 指導/教授・重枝豊、助手・加藤千晶

桜建賞

小川朋大 (理工学部建築/卒業設計)
「ふるまいの風景 -Fragments of architecture -」 指導/教授・田所辰之助

細谷昂 (理工学部海洋建築工/卒業論文)
「物流機能維持に向けた港湾津波ハザードマップ開発に関する基礎的研究」
指導/教授・居駒知樹、准教授・惠藤浩朗、助教・相田康洋

新井義友、今津祥地郎 (理工学部海洋建築工/卒業論文)
「スラブ付RC造十字形柱梁接合部の多数回繰返し載荷実験」
指導/教授・北嶋圭二、特任教授・中西三和、名誉教授・安達洋

関根雅人、馬場淑弘 (理工学部海洋建築工/卒業論文)
「茨城県涸沼親沢鼻における湖浜変形の要因と影響に関する研究」
指導/教授・小林昭男、助教・野志保仁、客員教授・宇多高明

宮田諒 (生産工/卒業論文)
「伊是名集落の石垣築造におけるマニュアルの作成と実証」 指導/准教授・篠崎健一

笹谷瑞範、佐藤峻 (生産工/卒業論文)
「給水塔の保存に関する研究」 指導/教授・塩川博義

角田空 (生産工/卒業論文)
「クメール遺跡祠堂内の不思議な音に関する研究」 指導/教授・塩川博義

小山佳織 (生産工/卒業設計)
「“あたりまえ”の風景 -生活に寄生する地域活動の場-」
指導/教授・岩田伸一郎

長瀬紅梨 (生産工/卒業設計)
「箱入り娘の夜」 指導/准教授・篠崎健一

兵頭秀子 (工学部/卒業設計)
「地図にない建築 -内海を漂う方舟-」 指導/教授・浦部智義

赤羽聖明、川田寛人、菅野信、菅野大輔 (工学部/卒業論文)
「鋼板挿入ドリフトピン接合によるCLTパネルのせん断耐力に関する研究」 指導/准教授・野内英治

工藤陸良、武田昌也 (工学部/卒業論文)
「ポーラスコンクリートの性能評価 -粗骨材岩種が圧縮強度・静弾性係数に及ぼす影響、並びに各種静弾性係数推定式の適用性-」 指導/教授・出村克宣、専任講師・齋藤俊克

後藤寛尚 (工学部/卒業論文)
「東日本大震災前後の福島県で採られた建築設計者選定方式に関する研究」 指導/教授・速水清孝

佐藤友貴子 (工学部/卒業論文)
「第二師団歩兵第六十五聯隊 -会津のあゆみ-」 指導/専任講師・山岸吉弘

荒井美咲 (短期大学部/卒業研究・論文)
「照明のシェード素材に着目した物理的変化と心理的影響」 指導/教授・羽入敏樹

須賀友美 (短期大学部/卒業研究・設計)
「JMAM -日本近代建築博物館-」 指導/教授・矢代眞己、助手・石田優

オール日大建築系 2018年度 授与賞・受賞者一覧

理工学部建築学科・理工学研究科建築学専攻
[齋藤賞] <p>環境系および構造系分野の優れた修士論文に対し、齋藤賞基金に基づき、桜門建築会より授与。元日本大学副総長、理工学部長であった齋藤謙次先生の高い業績を称えて設けられた。</p> <p>＊ 10 ページ参照</p>

[吉田鉄郎賞]

設計・計画系分野の優れた修士論文および修士設計に対し、駿建賞基金に基づき、建築学科教室より授与。本学の設計教育の礎を築かれた建築家であり、かつ日本の建築文化の優れた論者を残した吉田鉄郎先生の業績を記念して命名。

- 佐々木麗「震災復興期の転居による接客空間の変化に関する研究 - 東日本大震災における宮城県石巻市雄勝地域の復興を対象として -」〈修士論文〉指導：山中新太郎准教授
- 横山大貴「神楽坂路地裏の空き家群を対象としたクリエイターのためのシェアハウス更新計画 - 地域に開かれた段階的施工プロセスによる改修方法の設計提案 -」〈修士設計〉指導：今村雅樹教授

[駿建賞]

環境系および設計・計画系分野の優れた修士論文および修士設計に対し、駿建賞基金に基づき、建築学科教室より授与。

- 蓮池類「RC 骨組の局所損傷に起因する層崩壊メカニズムの解明 - せん断柱の軸支持能力低下に伴う軸力再分配に着目した層崩壊シミュレーション」〈修士論文〉指導：長沼一洋教授、田嶋和樹准教授
- 鷺海昂「放射型ケーブル屋根構造の強風時の構造挙動に関する基礎的研究」〈修士設計〉指導：岡田章教授、宮里直也教授
- 吉村凌「1970年代を中心とした日本の建築批評の展開過程に関する研究 - 伊藤ていじの建築・都市批評とその史的意義について -」〈修士論文〉指導：田所辰之助教授
- 増田俊「多民族の共生を目指したコミュニティスクールの設計 - 多国籍地域である横浜市泉区上飯田町における小学校と地域センターの複合による地域開放型小学校の計画 -」〈修士設計〉指導：今村雅樹教授

[桜建賞]

優れた卒業論文および卒業設計に対し、桜門建築会より授与。

＊ 10 ページ参照

[駿優賞]

優れた卒業論文および卒業設計に対し、駿建賞基金に基づき、建築学科教室より授与。

- 大野信雄、大村慎子、奥田光「カーディオイドマイクによる音場の方向情報測定手法における適用周波数範囲の明確化と精度向上の可能性」指導：羽入敏樹教授、星和磨准教授
- 中村匠、矢田部英平、内田直登「疑似エネルギー容量に基づく過剰間隙水圧モデルの検討」指導：山田雅一教授、道明裕毅助手
- 山口裕也、溝口晴紀、梅田雅司「加熱処理したスギ製材の曲げ強度向上と実大材への適用」指導：秦一平教授
- 月成真隆「プレストレストコンクリート有孔梁のせん断強度に関する研究」指導：長沼一洋教授、田嶋和樹准教授、
- 本藤亮太郎、鹿目翔太「スタジアム形状の相違がトラック上の風の流れ場に及ぼす影響に関する基礎的研究」 指導：中島肇教

毎年卒業の時期に、大学院生、学部生の勉強の成果を顕彰する各種の賞が決定する。ここでは2018年度に授与した学生とそのタイトルを、一覧にして紹介する。

授、石鍋雄一郎助教
・鹿野清香「劇場・ホール等文化施設におけるバリアフリーに関する研究 - 障害者による舞台芸術表現・鑑賞活動のための環境整備に向けて -」指導：本衫省三特任教授
・神長優太「本陣建築の平面構成の再評価に関する考察 - 東日本で現存遺構の実測データを中心として -」指導：重枝豊教授、加藤千晶助手
・許絢華「忘れられたまち - 子どもが活きる分散型児童館の提案 -」〈卒業設計〉指導：山中新太郎准教授

[奨励賞]

優れた修士論文および優れた卒業論文・卒業設計に対し、理工学部校友会からの寄金に基づき、建築学科教室より授与。

- 平方李果「住宅における床吹出型全館空調方式の室内気流・温度分布に関する研究」〈修士設計〉指導：蜂巣浩生教授
- 服部恵多「高層建物モデルにおける制振ダンパーの配置決定方法に関する研究」〈修士論文〉指導：秦一平教授
- 佐藤千香「都市公園内飲食施設の計画に関する研究 - 2004年都市公園法改正後の現状と課題 -」〈修士論文〉指導：今村雅樹教授、山崎誠子准教授
- 小野良希「増築を伴うコンバージョン建築における既存建物との関係性を考慮した設計手法の提案 - 三浦市の観光拠点としての展示施設をケーススタディとして -」〈修士設計〉指導：佐藤慎也教授、古澤大輔助教
- 大軒萌、水野清楓「演劇空間における声質の伝達性能に影響を与える音響要素と物理評価法の検討」〈卒業論文〉指導：橋本修教授
- 相場光「雪荷重に対する大スパン山形ラーメン構造の弾塑性挙動に関する基礎的研究」〈卒業論文〉指導：中島肇教授、石鍋雄一郎助教
- 伊藤寛「街区単位にみる容積率の充足実態に関する研究 - 東京都小金井市を事例として -」〈卒業論文〉指導：宇於嶋勝也教授
- 中崎佑香「共生への建築 - 神田のモリを建てる-」〈卒業設計〉指導：佐藤光彦教授

理工学部海洋建築工学科・理工学研究科海洋建築工学専攻
[加藤賞] <p>もっとも優れている修士論文に対し、桜門建築会より授与。海洋建築工学科を創設された元理工学部長の加藤渉先生の功績を称えて設けられた。</p> <p>＊ 10 ページ参照</p>

[桜建賞]

＊ 11 ページ参照

[海建優秀賞]

もっとも優れている卒業論文に対し授与。

- 服部立「Singapore Aquatecture - シンガポール市街地における貯水池の建築化 -」指導：小林直明教授
- 岡田和俊、陳治、須永大輔、横山実花「鉛直荷重を受けるRC架構の地震時挙動に関する実験的研究」指導：福井剛教授

[海建賞]

- 佐々木凌太郎「鎌東京湾を対象にした生態系ネットワークに関する基礎的研究 - 浮遊経路の検証に向けて -」指導：大塚文和准教授
- 小林和貴、上野橋平「循環型浄化システムを基にした連続稼働システムによる水質浄化効果」指導：岡本強一教授
- 岡田貴裕「円筒形貯槽タンクの有限要素解析」指導：近藤典夫教授
- 中村隆浩「循環型浄化システムにおける微生物活性剤の投入時刻に対する浄化性能比較」指導：岡本強一教授
- 藤田優美「ウォーターフロント住宅における居住環境意識の経年変化に関する研究 - 東京・南千住と千葉・幕張の集合住宅を対象とした調査 -」指導：桜井慎一教授、寺口敬秀助手
- 勝部秋高「屋木苈の梯子 - ゼロメートル地帯の道しるべとなる防災・避難公園 -」指導：佐藤信治専任講師
- 田中孝登「海上公園における水辺環境を考慮した空間利用および管理運営のあり方に関する調査研究」指導：菅原遼助教
- 永井勇輝「津波災害時における観光施設等の外国人観光客への避難誘導に関する研究」指導：山本和清専任講師

生産工学部建築工学科・生産工学研究科建築工学専攻
[齋藤賞] <p>＊ 10 ページ参照</p>

[金井賞]

優れた修士論文に対し、建築工学専攻より授与。元日本大学副総長、生産工学部長の金井清先生が地震学で高い業績（朝日賞受賞）を上げたことを称え、昭和55年度から設けられた。

- 井手優汰「ラオス北部ゲオパトゥ村のモンの生活と信仰に関する空間要素の配置と住居のかたちについて」指導：篠崎健一准教授

[修士設計賞]

- 田丸明日香「京都府和東町における茶畑を生かした地域活性化計画 - イタリアのアルベルゴテフーゾの集落調査研究からみた手法の応用 -」指導：渡邊康教授

[桜建賞]

＊ 11 ページ参照

[卒業論文賞]

優れた卒業論文に対し、建築工学科より授与。平成26年度に設けられた。

- 宮田諒「伊是名集落の石垣築造におけるマニュアル作成と実証」指導：篠崎健一准教授
- 笹谷瑞範、佐藤峻「給水塔の保存に関する研究」指導：塩川博義教授
- 角田空「クメール遺跡祠堂内の不思議な音に関する研究」指導：塩川博義教授
- 篠原祥「東メボン寺院における排水能力と基壇の沈下状況に関する一考察 - クメール宗教建築の排水システムに関する基礎的研究 -」指導：塩川博義教授
- 長瀬紅梨「伊是名集落後辺の道で感じた『迷い込んだような高揚感』を生む空間的要素の探究」指導：篠崎健一准教授
- 福岡智洋、溝呂木菜々子「海軍建築における柔構造理論と実践に関する研究」指導：藤本利昭教授
- 飯野淳也、峠谷拓哉、野中俊彦「住空間における照明器具の光色選択に関する研究」指導：岩田伸一郎教授
- 新井直樹「日常生活行動の中年期から高年期における変化に関する研究」指導：山岸輝樹教授

[UIA 記念賞]

優れた卒業設計に対し、建築工学科より授与。昭和53年国際建築家連合主催の国際コンペでフランス建築アカデミー賞、昭和56年エジプト賞およびワルシャワ建築計画局賞の受賞を記念して、昭和56年度から設けられた。

- 金沢萌「ニブンノイチ改築 - 繋がる家たち -」指導：岩田伸一郎教授

[卒業設計賞]

優れた卒業設計に対し、建築工学科より授与。平成26年度に設けられた。

- 小山佳織「あたりまえ”の風景 - 生活に寄生する地域活動の場 -」指導：岩田伸一郎教授
- 渡邊健太郎「Urban Mountain」指導：岩田伸一郎教授
- 野中俊彦「New Owner’s Method - 難民・移民向け簡易住宅 -」指導：岩田伸一郎准教授
- 遠藤涼平「天空の霊廟」指導：岩田伸一郎教授
- 古田真耶「Artline 佐倉」指導：渡邊康教授
- 佐藤裕士郎「つぎはぎの記憶」指導：篠崎健一准教授

[中国科技大學特別賞]

学部と学術提携締結にともない2012年度より設けられた賞。台湾の中国科技大學規劃設計學院より授与される。

- 長瀬紅梨「箱入り娘の夜」指導：篠崎健一准教授

工学部建築学科・工学研究科建築学専攻
[齋藤賞] <p>＊ 10 ページ参照</p>

[桜建賞]

＊ 11 ページ参照

[北桜賞]

優れた修士論文に対し、工学研究科建築学専攻より授与。

- 栗原操生「歴史の大規模木造宿泊施設を対象とした火災安全性の研究」指導：森山修治教授

短期大学部建築・生活デザイン学科
[桜建賞] <p>＊ 11 ページ参照</p>

[自主創造賞]

優れた卒業論文・卒業設計に対し、理工学部校友会建築部会からの寄金に基づき、建築・生活デザイン学科と校友会建築部会より授与。

- 角田妃奈「街に住む - 商店街型シェアハウス -」指導：矢代真己教授、石田優助手

[奨励賞]

優れた卒業論文および卒業設計に対し、建築・生活デザイン学科より授与。

- 大藪祐司「上越妙高駅周辺で1時間暇を潰せる資料館兼レストラン」〈卒業設計〉指導：山崎誠子准教授
- 川副升平「音線法による2次元室内音響シミュレーションの開発」〈卒業論文〉指導：星和磨准教授
- 未廣有輝「格子型地盤改良工法による液状化対策に関する実験」〈卒業論文〉指導：廣石秀造助教
- 野村千遥「音楽ホールにおける舞台上反射板の角度の縮尺模型実験による検討」〈卒業論文〉指導：羽入敏樹教授

事務局だより

平成31年度の桜門建築会総会のご案内



案内図/JR御茶ノ水駅、地下鉄丸の内線御茶ノ水駅、地下鉄千代田線新御茶ノ水駅より、徒歩約5分程度

来たる5月29日(水)に平成31年度の桜門建築会総会を、東京ガーデンパレスにて開催いたします。会員の皆さまは、どなたでもご出席でき

ますので、どうぞふるってご参加ください。なにかご不明な点がありましたらHPをご覧ください、下記事務局までお問い合わせください。

日時/平成31年5月29日(水)
総会・18:00～懇親会・19:00～
会費/8000円 会場/東京ガーデンパレス

新入特別維持会員のご紹介

新規入会者 氏名/卒業年/勤務先 (平成30年11月3日～平成31年2月1日) 5名

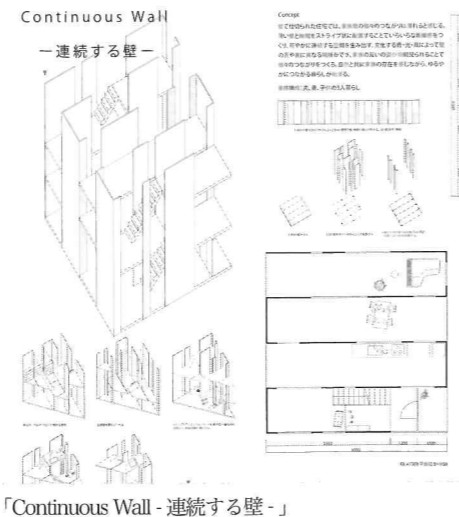
後藤 真史	理工建-H14	(株)セクト	加藤 昇	生産工-46	(株)安井建築設計事務所
鈴木 健博	他学科-H1	(株)J建築検査センター	浦部 智義	他大学-H13	日本大学工学部
嶺島 伸治	理工海-60	環境スペース(株)			

学部ニュース

生産工 トピックス①

◎2018年度日本建築学会大会学術講演会 構造部門(鋼コンクリート合成構造)で、柴田知実さん(藤本研・M2)が、「CFT柱の変形能力に関する基礎的研究 その2 限界部材角の定義による検討」を発表し、若手優秀発表賞を受賞した。
◎2018年11月17日～12月2日九州産業大学で開催した「建築家・宮脇檀のドローイング展 巡回展」で、当学部で開催した「教育者・宮脇檀へのオ

マージュ展」の展示の一部「M氏のための別荘」(宮脇先生が一つひとつ手描きのコメントをつけた学生課題)30点が展示された。
◎「第18回住宅課題賞2018(建築系大学住宅課題優秀作品展)」(主催/一般社団法人東京建築士会)で、光樂瑠子さん(建築デザインコース・篠崎研3年)の作品「Continuous Wall-連続する壁-」が、優秀賞2等を受賞した。



桜建会報 NO.114 2019-March
発行人 斎藤俊男
編集 桜門建築会広報委員会
〒101-8308 千代田区神田駿河台1-8-14
日本大学理工学部内

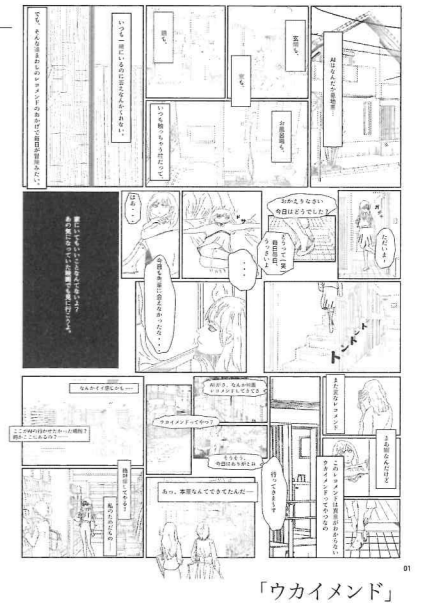
広報委員会
委員長 佐藤慎也(理工学部建築学科)
副委員長 塩川博義(生産工学部建築工学科)
矢代真己(短期大学部建築・生活デザイン学科)
委員 大川三雄(理工学部建築学科)
山本和清(理工学部海洋建築工学科)
亀井靖子(生産工学部建築工学科)
齋藤俊克(工学部建築学科)
北川健太(セカイ)
大西正紀(mosaki)
西山麻夕美(フリー編集者)

桜建会事務局
住所・所属の変更、クラス会の開催、投稿、会費、名簿など桜建会全般についてお気軽にご連絡、お問い合わせください。
理工学部駿河台校舎タワー・スコラ7階 S708奥
TEL03-3259-0649 FAX03-3292-3216
E-mail kaiin@okenkai.jp
ホームページ http://www.okenkai.jp/
専任/星野麻衣子
非常勤/櫻井佐和、大木明子
業務時間/AM10:00～PM5:00(月～金)

理工 建築学科トピックス①

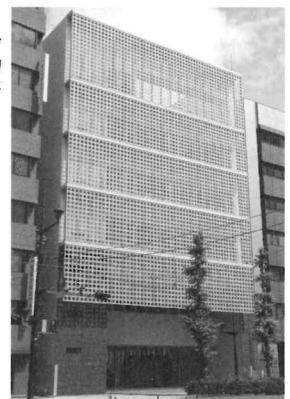
◎「新建築住宅設計競技2018」(主催/吉岡文庫育英会、新建築社)で、増本慶君(古澤研・4年)、山大地樹君(同)の「ウカイメンド」が1等を受賞。審査員は重松象平氏、テーマは「AIの家」。
◎「第6回埼玉県環境住宅賞」(主催/埼玉県住まいづくり協議会)で、額賀愛美さん(山中研・4年)の作品「ウチとソトの家」が「優秀賞(学生部門)」を受賞。埼玉県知事賞1点に次ぐ優秀賞3点に選ばれた。
◎「2018年度日本建築学会大会学術講演会シュル・空間構造部門」(主催/日本建築学会シュル・空間構造運営委員会)で、松田麻未さん(岡田・宮里研・M1)の論文「六角形格子により構成されたHP型ケーブルネット構造の基本的構造特性に関する研究」が「若手優秀発表賞」を受賞した。
◎「千代田区を舞台にした学生設計展2018」(主催/日本建築家協会千代田地域会)で、伊勢萌乃さん(田所研・M1)の「身体を通過する建築」、小川朋

大君(田所研・4年)の「戯曲としての建築 千代田区新スポーツセンター整備に対するカウンタープランの提案」、小田島立宜君(今村研・4年)の「日常の美術館 東京ビエンナーレ構想に向けた秋葉原芸術拠点の提案」、山川香子さん(今村研・4年)の「古をつなぐ 神田明神環境再編計画」、吉澤真君(佐藤光彦研・4年)の「狭間に立つ」が「学生優秀作品賞」を受賞した。
◎「優秀建築選2018」(主催/日本建築家協会)に、今村雅樹教授の建築作品「熊本県医師会館」が選ばれた。本作品は、2017年に竣工。意匠設計を伊藤喜三郎建築研究室・今村雅樹アーキテクト設計JVが担った。
◎富田隆太教授が分担執筆した『建築物の振動に関する居住性能評価規準・同解説』(日本建築学会編、日本建築学会)が刊行された。本書は、日本建築学会環境基準として、建築物の環境振動に関する居住性能評価規準が提案され、解説されている。



「ウカイメンド」

右/熊本県医師会館。下/『建築物の振動に関する居住性能評価基準・同解説』の表紙



理工 海洋建築工学科トピックス

◎新宮清志名誉教授は、一般社団法人日本建築構造技術者協会(通称SCA)の2019年度・2020年度役員選挙に基づき、6月18日開催予定の通常総会後から同協会の「監事」を務めることとなった(任期は2年間)。

工 トピックス①

◎齋藤俊克専任講師は、月刊建築仕上技術8月号の巻頭言に、『「ロハスの工学」と研究課題』を寄稿した。
◎浦部智義教授らの縦ログ構法研究会は、2018年9月に建築資料研究社から「縦ログ構法の世界-森・まち・産業を支える新しい建築のつくり方」を出版した。
◎速水清孝教授は、論文「プロフェッサー・アーキテクトと研究と設計(特集 再び手を結ぶ、研究と設計)」を「建築雑誌」9月号に寄稿した。
◎山田義文専任講師は、日本肢体不自由児協会機関紙「はげみ」10-11月号に「バリアフリー・ユニバーサルデザインの今」を寄稿した。
◎岡部真純さん(市岡研・4年)は、10月13～14日に開催した日本造園学会東北支部第18回大会のポスターセッションで優秀学生賞を受賞した。
◎齋藤俊克専任講師は、10月18日、

日本材料学会コンクリート工用樹脂部門委員会第193回定例会で、「ポリマーセメントモルタルの各種特性とその試験方法に関する検討」と題して講演した。
◎浦部智義教授と浦部研究室は、10月30日、NPO法人福島住まい・まちづくりネットワークが企画発行した「地図集制作活動[福島アトラス-原発事故避難12市町村の復興を考えるための地図集制作活動-]」で、2018年度グッドデザイン賞、同ベスト100、同特別賞:グッドフォーカス賞[復興デザイン](日本デザイン振興会会長賞)を受賞した。
◎森山修治教授は、11月16日、日本火災学会主催の火災科学セミナー「近年の社会動向や技術進歩を踏まえた火災対策」で、「飲食店の火災低減に向けた課題と解決策」と題して講演した。

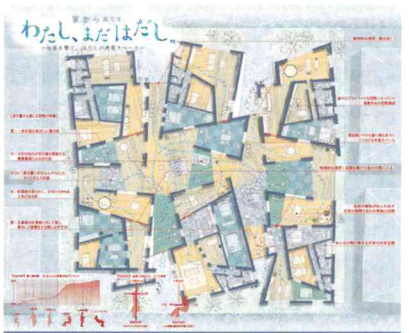
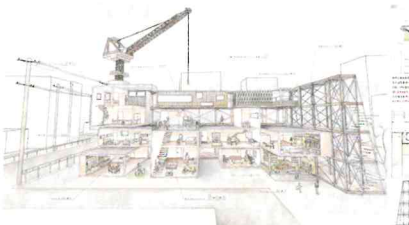
生産工

トピックス②

◎第7回大東建託 賃貸住宅コンペ「身近な社会問題と向き合う、新たな賃貸住宅とは」で、伊藤拓海君・中里翔太君(岩田ゼミ・3年)・池田光君・大沼謙太郎君(岩田研・M1)によるチーム作品「繋がる事は良い事だ-そうだ、商店街に住もう-」が佳作に入選した。

◎第14回ダイワハウスコンペティション「太っ腹な家」で、池田光君(岩田研・M1)の作品「旅する賃貸住宅」が佳作に入選した。

◎「第4回三協アルミ学生建築コンペ 未来のとびらコンテスト2018」で小室昂久君(岩田研・M1)、小山佳織さん(岩田研・4年)、渡邊健太郎君(岩田研・4年)の3名によるチーム作品「家から出てもわたし、まだはだし-住居を繋ぐ、はだしの共有スペース」が最優秀賞を受賞した。



上/「繋がる事は良い事だ-そうだ商店街に住もう-」 中/「旅する賃貸住宅」 下/家から出てもわたし、まだはだし

左上/「Eternité」 右上/「迷いの創造する形」
左下/「紡ぎ」 右下/「I choose to go to the Moon」

理工

建築学科トピックス②

◎「日本建築学会関東支部第20回提案競技『美しくまちをつくる、むらをつくる』(主催/日本建築学会関東支部)で、田口周弥君(今村研・M1)、谷山歩人君(山崎研・M1)の「表裏一体都市と神田川を結ぶ緑地帯」が「優秀賞」と「千代田区長賞」、柳沼明日香さん(佐藤光彦研・M1)、田川磨理沙さん(同)、吉野由起音さん(古澤研・M1)の「水都の歯車」が「優秀賞」、田村隼人君(今村研・M1)、高橋樹君(同)の「人と文化の集い橋」が「佳作」、本田偉大君(今村研・M1)と力武瑞穂さん(田所研・M1)の「水電都市東京 小水力発電による水都再生」が「佳作」を受賞。テ-

マは、濠や川などの水辺空間を活かした生活・環境・文化の継承。

◎「ERI 学生デザインコンペ2018」(主催/ERIホールディングス)で、高橋樹君(今村研・M1)、稲毛田洗太君(今村研・M2)、田中雄也君(今村研・4年)、山川香子さん(同)の「GINZA Sky Showrooming」が「佳作」を受賞した。

◎「歴史的空間再編コンペティション2018in 金沢」(主催/歴史的空間再編学生コンペ実行委員会)で、建築学専攻1年の高橋樹君(今村研・M1)の「重層する境界 渋谷広告立面再編による新たな商業施設的设计手法の提案」が「6位」を受賞した。

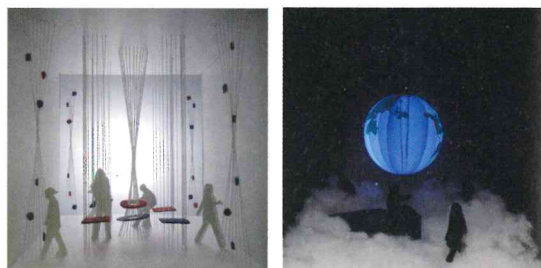
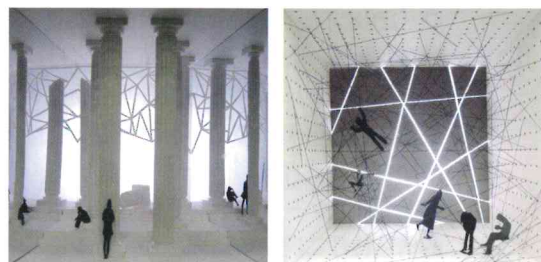


上/「表裏一体」 下左/「縦走する境界」
下右/「GINZA Sky Showrooming」

短大

トピックス

◎「インテリアプランニングコンペ2018」(主催/日本インテリアプランナー協会)で、応募総数237案の中から、荻島紗季さん(矢代研・2年)の作品「Eternité」が「特別審査員 河村容治賞」を受賞、また、上杉玲央君(矢代研・2年)の「迷いの創造する形」、西野晴香さん(1年)の「紡ぎ」、水上さゆなさん(1年)の「I choose to go to the Moon」の3作品が入選した。6メートル角のキューブ内に「物語るインテリア」をデザインすることがテーマとされた。



工

トピックス②

◎10月20日、第22回東北建築学生賞(主催/日本建築家協会)で、15校16学科応募総数40作品中、安東大毅君(速水研・4年)の作品「身体を澄ます建築」が最優秀賞、荒木千春さん(浦部研・4年)の作品「まちを編む」が奨励賞(東北専門新聞連盟賞)を受賞した。

上/「身体を澄ます建築」 下/「まちを編む」

